

1 学校教育目標
<p>「夢実現 ～百見は一験に如かず～」</p> <p>ア 教育方針</p> <p>(ア) 「平成 29 年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を踏まえ、社会に貢献する生徒の育成をめざす。 (イ) チーム学校の一員として、生徒・職員・家庭・地域一体、活気ある学校づくりを目指す。</p> <p>イ 教育目標</p> <p>(ア) 健全な心身の育成</p> <p>①学校の教育活動全体を通して、人権尊重、道徳を含む生徒の心身の向上に努める ②体験学習・ボランティア活動を通じて、貢献し、奉仕する心を育てる ③部活動を活発にし、行動力、協調性、社会性を磨く ④教育環境を整備し、生徒の健康・安全教育の徹底を図る</p> <p>(イ) 学力向上と進路指導の充実</p> <p>①一人ひとりの学力や個性に応じた「参加させる授業」を工夫し、自ら学び考える力を育成する。 ②将来の目標を早期に設定できるように援助し、自己実現に取り組ませる。</p> <p>(ウ) 地域社会の期待に応える学校づくり</p> <p>①一人ひとりの活動する機会を工夫する。 ②基本的な生活習慣を身につけさせる。 ③地域を活用した教育実践をすすめる。</p>
2 本年度の重点目標
<p>ア 基本的な生活習慣の確立</p> <p>(ア) 言葉遣い、挨拶を身につける。 (イ) 時間厳守し、遅刻や欠席のない生活習慣や身だしなみを確立する。 (ウ) クラスや地域に貢献し、甲佐高校生として自覚と誇りを育てる。</p> <p>イ 教師の授業力向上、個に応じた学習指導と進路指導</p> <p>(ア) 「授業力」の向上 生徒が主体となる授業の工夫を重ねるための授業研究、公開授業を活用する。 (イ) 個別の添削、面接指導等により個々の能力に応じたきめ細かな指導を行う。 (ウ) 夢実現のため図書館や進路指導部等の活用をすすめる。 (エ) 日々の教育活動を通じて生徒理解に努め、共通理解を図る。</p> <p>ウ 特別活動（生徒会・部活動等）を生かした自主性、創造性、奉仕の精神などの育成</p> <p>(ア) 部活動や委員会活動等への積極的に参加できるよう運営や時間を工夫し、教育活動全般を通じて人権教育、道徳教育を行う。 (イ) 学校行事、ボランティア活動などを通じて、自ら考え、自ら行動できる生徒の育成を図る。</p> <p>エ 地域と連携した教育活動</p> <p>(ア) 広報活動や学校評議員制度等を通じて、地域社会に対し本校教育への理解と協力を深める。 (イ) 保護者との面談や家庭訪問を計画的に行い、家庭と学校の連携を密にするとともに地域社会、特に小・中学校との連携を深める。</p> <p>オ 言語環境の整備</p> <p>(ア) 学校生活全体を通じて、言語に関する理解や関心を深め、言語環境を整えるとともに総合的な言語能力（読む・書く・聞く・話す）の習得並びに実践する態度を養う。 (イ) 図書館の充実を図る。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	活気ある学校	体験学習・ボランティア活動の充実	自らの身体で体験し、奉仕や勤労、命を大切にし、人権を尊重する心を育てる	<ul style="list-style-type: none"> 各活動で体験学習の場を設ける 奉仕や勤労意欲を正に評価する 命を守る大切さを意識できる活動 	A	地元企業の協力を得て有意義な体験学習を行うことができた。町商工会の産業文化祭や物産展に参加し、貴重な経験を積むことができた。
		学校行事等で育む自ら考え動く生徒	学校行事等に自ら積極的・創造的に参加する	<ul style="list-style-type: none"> 生徒中心の創造的な企画と運営 役割分担と協力体制の確認 生徒が気づき動くための支援 	A	体育大会、青垣祭での達成感・充実感を得た生徒が多かった。青垣祭では地域住民の参加を促す催しもできた。
		部活動の活性化	社会と関わり、年間を通して活発に活動する部活動の育成	<ul style="list-style-type: none"> 見通しのある活動計画と運営 行動力、協調性、社会性を育む 	B	クライミング同好会が部として発足。バドミントン部の活動が積極的になってきた。
	信頼される学校	育友会、地域、同窓会との連携・協力	100周年の節目の年を迎える準備としての連携・協力を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 必要な事項の精選、記念行事についての情報収集 育友会や同窓会と共有し実働 	B	100周年に向けて青垣祭では、甲佐高校や町の歴史がわかる資料を展示した。
		保護者・地域等との連携と効果的説明・広報	100周年の節目の年をひかえ、活気ある学校づくりを目指した学校教育活動の効果的な情報提供・広報を推進。受検者70人以上を迎える。	<ul style="list-style-type: none"> 学校HP、案内パンフ、新聞、育友会報、広告等による積極的発信 同窓会の各支部からの応援メッセージ等を発信する 各学校行事、体験入学、高校説明会、学校評議員会等を活用した情報提供 町・地域との連携・協力と行事への積極参加 	A	育友会総会は、報告集会を含め出席率70.1%で、昨年よりわずかに向上した。更なる内容の充実を図る。甲佐高だより、きんもくせい等により積極的に情報発信ができた。地域と連携した防災・避難訓練を実施した。
	学校改革	緊急時対応の再整備	緊急時対応マニュアルの見直しと緊急時連絡体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時対応マニュアルの見直し 安心メールの運用とホームページの緊急対応 	A	安心メールの運用を開始し、緊急時の訓練を数回行った。ホームページの内容も充実し、機動性が向上した。
職員の連携・特性の発揮		<ul style="list-style-type: none"> 経営コンサルティングを踏まえた協働体制の確立 生徒と向き合う時間増のための校務見直し 	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌内及び分掌間の緊密な情報交換、共通理解に基づく協働 生徒・職員の満足度アップ 学校価値の創造向上 	A	コンサルティングの意識が職員に浸透しており意識も向上している。分掌部毎の課題の明確化など、分かりやすい改善ができた。	
会議等の効率化と研修の深化		連絡体制の簡素化と見直しを持った準備・運営	<ul style="list-style-type: none"> 朝会等の回数減や時間短縮 職員会議・研修の定例化による見通しの明確化 	A	週2回の朝会が定着している。定例職員会議の定着で、職員会議や運営委員会も回数が減った。	
学力向上	授業力の向上	分かる授業の工夫と研究授業	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業の積極的な実施 公開授業の活発化 	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業への参加率向上、教科の枠を超えた横断的な合評会の開催 公開授業週間の設定、積極的参観 	A	公開授業週間中の授業研究など、研究授業の数は大幅に増加した。今後は、授業の質を高めるべく研究授業を促進する。
	個に応じた「分かる」学習指導	授業の理解と個別指導の充実	授業理解が十分達成できていると概ね達成できている生徒の計80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 指導法、生徒理解情報の共有 身近な題材、体験的・活動的な学習 	A	昨年度比0.7p増（学校評価アンケート）であった。体験的な学習の研究など、指導方法のさらなる充実を図る。
	学習に対する意欲・姿勢	自ら学ぶ意欲	学習に対して、自ら意欲的に取り組んだ体験を持つ生徒を100%	<ul style="list-style-type: none"> 人権教育の視点に立った、個々に応じた丁寧な授業づくり 基礎基本の徹底、課題学習 将来(進路)につなげる学習指導 	B	考査前学習会の工夫で成績不審者は半減したが、今後、「生徒の主体的な学び」の視点に立った授業の促進により、更に自ら積極的に学習に取り組む姿勢を促す必要がある。
キャリア教育	自らの可能性に挑戦し、進路の実現を目指す	自己実現に繋がる早期の目標設定	進路目標の早期設定率100%を目指す（3年生は100%、1、2年は2月までに70%以上）	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の視点に立った進路学習、進路ガイダンスの実施 二者面談・三者面談の実施 タイムリーな進路情報の提供 進路検討会の実施 	B	1、2年生の早期設定について工夫をする必要がある。校内外のガイダンス等により進路意識の変化があり、今後もキャリア教育を充実させたい。

(進路指導)		目標進路実現のための努力	<ul style="list-style-type: none"> ・進路目標の達成率100% ・上級学校・公務員志望者前年比増 ・受験者の全員合格 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演、職業講話、就業体験 ・進路ガイダンス等の活用 ・積極的な進路情報の収集・提供 ・進路指導の機能強化(進路部・学年・各教科の連携、進路資料利活用、的確できめ細かな進路指導・進路相談) ・個別指導の徹底と学習会の実施 ・公務員受験に特化した徹底指導 	A	今年、現在のところ就職希望者のうち数人が未定である。しかし、高卒求人を活用した求職者は100%決定している。進学希望者についてもほぼ希望通りの進学先に合格することができた。進学希望者や就職希望者に対する個別指導の徹底も成果になっている。今後は、校内に開設された甲佐町の公営塾との連携をいかに深めていくかが課題である。
生徒指導	個を尊重した生徒指導	基本的な生活習慣と言語環境の整備	挨拶励行等、基本的な生活習慣を身につける(十分達成できる生徒70%以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・共通理解に基づく全職員による生徒指導 ・日々の挨拶の励行、時間の厳守、言葉遣いや身だしなみの指導 	B	挨拶の励行や整容指導で徹底できない部分があった。学年部と生徒指導部の連携による指導の充実が今以上に必要である。
	安心安全	自信と誇り・思いやりの心	生徒の自尊感情を高め思いやりの心を育む	<ul style="list-style-type: none"> ・活動できる場面の創成 ・正門一礼の定着 ・いじめや問題行動を見逃さない、許さない指導 	A	「正門一礼」は、全生徒の意識が向上した。生徒の変化を見逃さない指導を心がけている。
		危険回避と適切な利用(SNS)	携帯電話、スマートフォン等ネットリテラシーを身につける(概ね達成できている生徒80%以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会、生徒自身による取組の推進 ・育友会との連携、協力体制確立 ・情報安全教育への組織的な取組 	B	育友会総会時に、御船警察署よりSNSの危険性を説明いただいた。生徒が犯罪に巻き込まれないように継続した指導が必要。
人権教育の推進	人権尊重の精神	人権に関する知的理解の深化および豊かな人権感覚の育成	人権課題解決に向けた個別学習の実施と差別をなくそうとする態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の積極的推進(全領域) ・人権教育講演会の実施 ・人権が尊重される環境づくり ・家庭訪問を基軸にした背景理解 	A	研究指定2年目となり、「人権尊重の視点」を意識した人権教育の推進を図ることができた。今後は、効果的な実践の共有と更なる深化を図りたい。
		研修の充実と推進体制の強化	最低1回の校外研修参加を含めた計画的な研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会の活性化 ・校外研修の案内と参加促進 ・実践力向上に向けた意識啓発 ・生徒及び職員のなかまづくり 	A	ほぼ全職員が校外研修に参加することができた。校内では計画的な研修実施と実践交流ができた。研修により職員・生徒の人権教育に対する意識が向上している。
	自他の命の尊重	自他の命を大切にする心	「自他の命を大切にする心」を育む指導プログラムの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・命の教育、心の教育の充実 ・職員会議・研修等による共通理解と生命尊重に立った教育実践 ・相談窓口の周知 ・SC・SSW等の専門機関と連携 	B	学校評価アンケートによると生徒・保護者とも昨年より若干、良化している。今後もより生徒・保護者が相談しやすい体制の構築に努めたい。
いじめの防止等	いじめ防止と早期の発見	「いじめ防止基本方針」及び「いじめを許さない」行動指標の定着	生徒・職員・保護者の連携 「いじめを許さない」行動指標の点検(アンケート等)	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修等の充実 ・「心のきずなを深める月間」に各クラスで学習を実施 ・育友会総会等を利用した基本方針の周知徹底 ・アンケート実施 	A	「いじめ防止基本方針(改訂版)」の周知や「いじめに関するアンケート」、生徒の命を守るために教職員が必要とされる認識に関する研修等を計画的に実施した。
		いじめ未然防止のための組織的な取組	生徒・職員・保護者の意識向上による、いじめの未然防止、早期発見、早期対応	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会による働きかけ ・いじめ防止対策委員会活動の充実(定例開催、随時開催) ・職員会議・学年会等での共通理解と検証 	B	生徒の命に関わる重大事案はなかった。生徒間での日常の言動やSNSのやりとりで、気になる場面が見受けられる。いじめの未然防止に向け、教職員の見守りの他に、生徒会を中心とした生徒による働きかけをさらに充実させたい。
特別支援教育	個々への適切な支援と、ユニバーサルデザインの授業	特別な支援を必要とする生徒の把握・対応 ユニバーサルデザインの授業づくり	個別の支援計画、指導計画の活用 生徒、保護者、専門機関との連携 職員の授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画・指導計画の定期的な評価、検証(校内委員会、職員研修での共有) ・各種機関との情報交換、巡回相談の活用 ・校内研修の実施 	A	研修会の実施など、特別支援教育に関して職員のスキルアップに繋がっている。また、アセスメントの実施や学校全体でUDの授業づくりに取り組

	づくり					めた。 個別の支援計画、指導計画の運用は、昨年度より進展している。 適応指導研究指定校として、小中学校との連携が活発になる傾向にある。
保健環境	健康管理意識の高揚	健康の自己管理能力を高める	基本的な生活習慣の確立	・ほけんだよりによる健康意識の向上 ・保健室来室時の個別相談	A	保健室来室時の問診で、個別指導を積極的に行った。「ほけんだより」等で情報を提供していきたい。
	環境整備	安全管理と掃除	安全点検の実施 掃除の徹底	・職員・生徒による校内安全点検を月1回実施 ・美化強化週間の実施 ・環境ISOの周知徹底	B	環境ISOについては意識の向上がみられる。分別についてPPを作成し、全生徒・職員で現状を把握した。
地域連携	コミュニティスクール	・コミュニティスクールとしての防災訓練の実施	・地域住民と連携した防災訓練の実施	・地域住民、若草保育園と連携し、本校を避難場所とした防災訓練の実施	A	地域住民30人、若草保育園園児・職員120人、分教室の職員・生徒と合同の防災訓練を実施。
	学びの場	・地元商工会との連携 ・保育園等を学びの場とする	・商工会と連携した販売実習等 ・保育園での実習	・町商工会主催の産業祭への参加 ・保育園での缶バッジ作成指導	A	地元業者と「ニラみそあられ」を開発・販売した。商工会の行事にも参加し、販売実習は生徒の貴重な経験となった。

<p>4 学校関係者評価</p> <p>(1) 成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度も町や商工会等と協力して校外での販売実習等が充実し、学校独自の商品「ニラみそあられ」を開発した。 ・甲佐町が甲佐高校の活性化策として公営塾を開催。生徒も14名が放課後や部活動の後に学んでいる。 ・正門一礼の取組はさすがしくて気持ちの良いものになっている。 ・学校づくりの原点は授業であるため、研究授業の18回実施は良い取組である。今後も続けて欲しい。 ・就職試験では難関である郵政事務に1名内定した。2年生が次年度の公務員試験に向けて準備を進めている。 <p>(2) 提案他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲佐町としても生徒確保に向けて学校の活動を支えるので、子ども達の夢を叶える学校になって欲しい。 ・学校の存続に向けては職員の頑張り、生徒の頑張っている姿や気持ちも必要。 ・「生徒の主体的な学び」の取組は進んでいるため、魅力ある楽しい授業づくりをして欲しい。 ・町内PTAの研修会で、高校の様子を伝える時間を次年度も確保するので活用してほしい。 ・高校も中学校も3年間の生活を充実させ、進路決定が大切である。保護者に対して情報を発信することも重要。 ・レオクラブの活動は高校と中学校が連携したものになっている。今後も積極的な取組を期待する。 ・学校と保護者が情報を共有してSNS等で学校の話題を取り上げ、情報発信することが大切である。 ・大学の推薦入試はどこの高校も同じであることを保護者に理解してもらう取組が必要。
--

<p>5 総合評価</p> <p>1 本年度の学校教育目標 「夢実現 ～百見は一験に如かず～」</p> <p>ア 教育方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会に貢献する生徒の育成」を目指し、様々な場面で町や地元企業等との連携のなかで実践的な教育ができた。 ・チーム学校として、職員、生徒、家庭、地域一体となる取組を青垣祭やコミュニティスクール等で実践できた。 <p>イ 教育目標</p> <p>(ア) 健全な心身の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校外での学習や販売会への参加など、地域と連携した活動の機会が増えた。 ・「人権教育指定校」の取組により、人権を尊重する心を育むことができた。 ・生徒用の連絡ボードを活用して自立を目指し、生徒が連絡等を行えるようにした。 ・クライミング同好会を部として活動できるようにした。平成30年度から女子硬式野球部の創部に向けて進めた。 <p>(イ) 学力向上と進路指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を18回実施し、「生徒の主体的な学び」を取り込み、合評会で授業の在り方について研究を深めた。 ・全学年を対象に個別の学習会を実施し、発展的な学習にも取り組んだ。 ・特性のある生徒について、合理的配慮協力員や巡回相談を積極的に利用し、職員の研修を図ることができた。 <p>(ウ) 地域社会の期待に応える学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省による人権教育研究指定校2年目（最終年）の取組を、他の学校や地域に発信すると共に、職員の研修を深めることができた。 ・甲佐町からのボランティア協力依頼は、積極的に協力することができた。 ・地域の行事参加により様々な学びができた。 <p>2 本年度の重点目標（実践内容）</p> <p>ア 基本的な生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「正門一礼」を含めた挨拶の励行は定着してきたが、遅刻の減少に向けて今後も学校全体で取り組む。 <p>イ 教師の授業力向上、個に応じた学習指導と進路指導</p>
--

- ・研究授業や公開授業を行うことで、授業の工夫や授業研究が進んだ。
- ・個別の添削、面接指導等により個々の能力に応じたきめ細かな進路指導の結果、ほとんどの生徒が進路を決定した。
- ・学習内容の定着及び発展的学習を図るための個別指導が定着し、公営塾との連携も深まっている。

ウ 特別活動（生徒会・部活動等）を生かし、自主性や創造性、奉仕の精神などの育成

- ・生徒会を中心に甲佐中と連携した甲佐レオクラブの活動を行った。地域とのつながりを大切にしたい。社会奉仕活動を広めたい。
- ・学校行事やボランティア活動の体験により、自ら考え行動できるようになってきた。

エ 地域と連携した教育活動

- ・甲佐町の回覧を利用した広報活動、育友会の広報や学校評議員会等での発信により甲佐高校に対する理解を高める事ができた。
- ・防災型コミュニティスクールとして本校で地域合同の避難訓練を実施し、地域との一体感が出てきた。
- ・若草保育園・甲佐保育園の園児を対象に、ビジネス情報科の1年生が缶バッジ作成を指導した。園からも、その保護者からも好評であった。

オ 言語環境の整備

- ・言葉を大切にする重要性を繰り返し伝えていくが、課題は多い。SSTなどを通して、今後も指導を続ける。また、総合的な言語能力（読む・書く・聞く・話す）の習得並びに実践する態度を養いたい。

3 自己評価総括表

「特別支援教育」「保健環境」を昨年度から自己評価に加えている。改めて学校全体で取り組む意識を高揚し、職員の指導力向上並びに学習環境の整備、健康管理意識の向上につなげる狙いがある。全職員で生徒理解研修を行い、生徒一人一人に対して情報を共有し、ぶれない指導を目指した。

「学校改革」では、昨年度に引き続き職員朝会を週2回とし、ゆうネットの活用を促進することで口頭での連絡時間を大きく削減でき、生徒に関わる時間を生み出している。

今年度も、県立高校魅力創造発信事業を活用し、宇城地区の6校で合同のポスターやパンフレットを作成し、幅広い広報活動を行うことができた。さらには、御船高校と合同でクリアファイルを作成し、7,200枚を上益城周辺の中学校に配付した。育友会と連携し広報紙「きんもくせい」を甲佐町で回覧ができた。「甲佐高だより」は毎月の町内全戸配付を継続し、紙面の改訂も定着した。月によっては、記事が収まらず次月号に掲載したものもあった。

「人権教育の推進」では、文部科学省による人権教育研究指定校2年目として、「学習活動づくり」「環境づくり」「人間関係づくり」に取り組んだ。成果発表会を通して職員の意識向上と共に地域社会への情報発信も行うことができた。

6 次年度への課題・改善方策

甲佐町の公営塾との連携、女子硬式野球部の創部、ビジネス情報科の校外活動、ボランティア活動等により町行政との連携は深まっている。今後は、その連携をさらに深め、よりよい教育活動になるよう積み重ねていきたい。また、入学者増に繋がる活動をさらに考え、積極的にいきたい。

防災型コミュニティスクールの運営協議会では、警察や消防のみならず、町、横田区、若草保育園など地域との連携を深めることができている。それぞれに協力し合いながら、助け合える関係になるように努めていきたい。地域からは、本校生の安全を見つめていただけており、本校生はその返しができるような取組を考えたい。

新学習指導要領の高等学校版が公表され、今後は授業の在り方そのものが変化していく。「生徒の主体的学び」を常に意識しながら、現学習指導要領の踏襲をしていく必要がある。

2020年に迎える創立100周年に向けて、甲佐高校生として自覚と誇りを育てるために、次年度は、特に以下のことを意識して取り組む。

- ① 「生徒の主体的な学び」、ICTのよりよい活用法、NIE等の発展的な授業研究とともに、それに繋がる評価の研究を行う。
- ② 進路実現に繋がる基礎的学力向上への取組を行う。
- ③ 「正門一礼」や日常の「気持ちの良い挨拶」を習慣化し、遅刻者数を減らす取組を行い、積極的に行動できる態度につなげる。
- ④ スマートフォン等を適切に取り扱うため、「甲佐高生のルール」を始めとする情報安全・情報モラルに係る指導を行い家庭と連携・協力して安全教育を進める。
- ⑤ 食事・運動・睡眠のバランスの取れた生活習慣の確立。
- ⑥ 多くの地域住民に来校していただき、甲佐高校の魅力を知らせる。
- ⑦ 進路決定率100%を継続すると共に、より高い進路目標や資格取得・検定に挑む体制を整える。
- ⑧ 職業理解を深めるために、地域や企業、上級学校と連携した講話や体験的な学習の機会を充実させる。
- ⑨ 必要とされるコミュニケーション能力向上のため、特に適切な「言葉遣い」の徹底を図る。
- ⑩ 福祉教養コース・ビジネス情報科における地域連携の深化。